

# 南海トラフ巨大地震など大規模災害に備えた 災害医療の「基本戦略」を策定しました！！

【概要版】

## 1 南海トラフ巨大地震の被害想定は？

避難者	当日	310,600人	1週間後	362,600人	1か月後	341,700人
人的被害	死者	31,300人	負傷者	19,400人	(うち重症者 5,900人)	
	新たに入院する患者	9,300人				

今後30年間に70%の高い確率で発生するとされている、南海トラフ巨大地震では、このように大きな被害が起こると想定されています。

また、東日本大震災では、医療機関の機能停止や長期の避難生活等に起因する、「災害関連死」が課題となり、このような「防ぎ得た死」をなくすための医療提供体制を整備する必要があります。

このため、その指針となる、徳島県戦略的災害医療プロジェクト「基本戦略」を策定しました。

## 2 基本戦略が目指す姿

- (1) 圏域毎の災害医療力の強化
- (2) 医療やケアなどが必要な方々に対する健康支援体制の整備
- (3) 災害関連疾患を防止するための避難環境の向上
- (4) 情報共有機能の強化
- (5) 防災用品の普及と先進的な技術・製品の導入



急性期から災害後の時期に応じた医療を提供



災害時でも治療やケアを継続



情報共有機能の強化



災害関連死を防ぐために避難所機能の強化

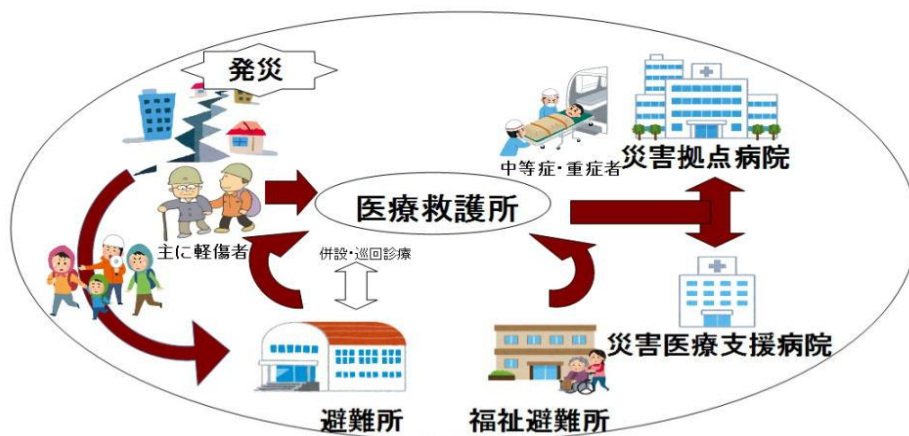


避難生活に役立つ防災製品の普及

### 3 災害医療力の強化

#### (1) 災害拠点病院を中心とした災害医療体制

大規模災害発生時には、被災された方の重症度に応じて、治療に対応できるよう、地域ごとに医療体制を整備しています。



◇災害拠点病院：重症傷病者の受入れや搬出、地域の医療機関を支援するなど災害時の拠点となる医療機関【県内11病院】（全て耐震化）

◇災害医療支援病院：災害拠点病院を支援、補完する医療機関【県内8病院】

◇医療救護所：災害時に応急手当を中心とした医療救護活動を行う場所（地区医師会が支援）

◇福祉避難所：介護の必要な高齢者や障がい者など、一般の避難所では生活に支障を来す人に対して、ケアが行われる避難所

☆ 日頃より、市町村が開設を予定している、避難所や医療救護所がどこか、確認しておきましょう！

#### (2) 災害時に活動する専門人材・チームの育成・強化

##### DMAT

災害急性期に活動できる機動性を持った医療チームを増やします。



##### 災害時コーディネーター

発災後、刻々と変化する被災者や避難所等の状況を的確に把握し、人材や物資の調整を行うコーディネーターを設置・強化します。

##### DPAT

被災した精神科病院の患者への対応や、被災者の心のケアを支援する専門チームを任命・強化します。



##### とくしま災害感染症専門チーム

避難所等における感染症発生のリスクを把握し、集団感染を未然に防止する専門チームを任命・強化します。

##### とくしま災害栄養チーム

避難所や給食施設等において、被災者の栄養状態の悪化を防ぎ健康支援を行う専門チームを任命・強化します。



##### 災害時リハビリテーションチーム (圏域リーダー)

避難所等における生活不活発病を予防するためのリハビリテーションチームを調整する圏域リーダーを任命・強化します。

その他にも、災害支援ナースや災害時公衆衛生支援チームなどの、災害時に活動する多くの専門チームがあり、研修や訓練を行っています。

## 4 医療やケアなどが必要な方々に対する健康支援体制の整備

- ◇ 人工透析医療機関の連携による患者支援体制を進めています。
- ◇ 在宅で療養している人工呼吸器装着患者の方の電源確保対策や在宅酸素療法患者の方の支援拠点の整備を進めています。
- ◇ オストメイトの方のストーマ装具の供給体制やがん患者の方の支援体制の整備を進めています。
- ◇ 他にも、治療やケアの継続が必要な高齢者や障がい者、乳幼児や妊婦、慢性疾患をお持ちの方などの災害時要配慮者の方々が、被災後も健康維持が図られるよう、サポート体制を整えます。



☆ **避難時には、治療が継続できるよう、お薬手帳を携帯しましょう。**  
(携帯電話やスマートホンに、薬の情報を写真に撮り、保存しておくのもよいでしょう。)

☆ **日頃から、主治医や利用している介護サービス機関等と、災害時の体制について相談しておきましょう。**

## 5 災害関連疾患を防止するための避難環境の向上

避難環境が悪いと、感染症や生活不活発病、慢性疾患の悪化など、災害関連の病気を増やすこととなります。災害関連死を防ぐためにも、現在の取組をさらに進め、避難所をはじめとした避難環境の向上を図っていきます。

### 避難所運営体制の推進

地域住民主体の運営ができるよう、避難所運営マニュアルの整備や女性も含めた避難所運営リーダーを養成します。



### 避難所環境に国際標準を導入

避難所の広さやトイレ、食料などに国際標準を導入した整備を目指します。

### 専門チームによる避難所等の支援体制の整備

避難所に専門チームを派遣し、被災者に必要な医療や健康支援が提供できるよう体制を整えます。



### 避難所に必要な物資の備蓄、供給システムの整備

県・市町村による食料・水、県によるアレルギー食品、市町村による避難所環境に必要な物資の備蓄や、災害時にアマゾンの「ほしいものリスト」などを活用した物資の供給システムを進めます。

☆ **日頃より、避難所運営訓練などに参加し、災害時に避難所環境をどう整えるか、考える機会を作りましょう。**

☆ **ご自分でも、飲み物や食べ物など、必要な物資を備蓄しておきましょう。**

☆ **女性や災害弱者の視点を取り入れた避難所環境を考えましょう。**

## 6 情報共有機能の強化

- ◇ 県民の皆様への情報提供や被災地からの情報把握ができるよう、様々な通信・伝達手段の確保を進めます。
- ◇ 災害時の医療提供が迅速・的確に行えるよう、医療や防災関係機関が情報共有できる、「災害時情報共有システム」の活用を進めます。

**☆ すだちくんメールなどを利用して、災害時に迅速に情報を入手したり、発信できるようにしましょう。**

※ すだちくんメールは徳島県の災害時の安否確認サービスです。  
大規模災害（震度5強以上）発生時に、携帯電話、スマートフォン・パソコンから、家族や職員などの安否情報が確認できます。  
また、災害時だけでなく、「くらしの情報」や「気象情報」などのお知らせメールの配信を日常的に行っています。  
さらに、すだちくんSNSで、災害情報や防災情報などを投稿し、情報の共有が出来るようになっていきます。

すだちくんメールトップページ <https://s.ourtokushima.jp>

## 7 防災用品の普及と先進的な技術・製品の導入

- ◇ 「とくしま地震防災県民会議」と連携し、県内企業が開発・販売する、防災・減災用品の推奨、PR活動に取り組みます。
- ◇ 災害医療に役立つ、先進的な技術・製品の導入、活用を図ります。

県民のみなさまへ

日頃から取り組んでいないと、災害時のいざというときには、行動できません。

市町村や県、団体、または地域の方々などが開催している、訓練や研修などに積極的に参加し、災害時にどう行動するか、考えておきましょう。

災害時には、県民の方どうしの助け合いが重要です。救急法などの講習も受けておきましょう。

徳 島 県